

教育行政の基本方針

始めに、新年度に臨む教育行政の基本方針を申し上げます。

にかほ市教育委員会は、教育が「人格の完成を目指し、社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民を育成する」という教育基本法に則り、秋田県教育の指針にある「ふるさとを愛し、社会を支える自覚と高い志にあふれる人づくり」を目標に、教育の充実・発展に努力して参りました。

市民一人ひとりが、霊峰鳥海の恵みを意識したふるさとの魅力を心に刻み、人生をたくましく生き抜き、地域社会に貢献していくためには、「教育の果たす役割」が極めて大きいと考えています。

現在、国際情勢や物価高騰、自然災害や感染症等の影響により、多くの人々が心身の不調や不安を感じております。このような中で、児童生徒の教育や生涯学習環境においても、学力の定着や向上に努めながら、同時に心のケアにも配慮するなど、学習者の安心と安全を意識した教育行政を展開しております。

令和7年度の教育委員会では、昨年に引き続き「超にかほ一体」を合い言葉に施策を進めて参ります。市制20周年を迎え、4年目となる「にかほ市教育大綱」をベースに、旧3町が持っている教育資源の貴重な価値をさらに認知し活用しながら、協働して教育政策に取り組み、にかほ市の教育が秋田県の「ふるさと教育」を牽引していきたいと考えています。

現在にかほ市教育委員会では、少子化による人口減少が進む中で、「生涯学習」を骨格に据えて、教育行政を進めております。人間は、この世に生を受けて成長する過程で、家庭教育、幼保教育、小・中・高の学校教育、大学、専門学校、社会人教育のそれぞれのカテゴリを経験します。私たちは、学校教育に地域住民の培ってきた生涯学習の手立てを積極的に投入し、義務教育において、市民の協力による教育活動への参加や支援をお願いしたいと思っています。昨年10月に小学校の授業に地域の高齢者が参加し、小学4年生と地域のお年寄りが一緒にボッチャとモルック競技を行いました。子どもたちにとっても、地域住民にとっても「心躍る楽しい体験」となりました。参加者から「小学生と喜びを共有できた、小学生に戻ったようで楽しかった、また、参加した

い」という声が多数あったことは、令和7年度の生涯学習の推進に向けて励みとなっています。

学校教育においては、昨年の小・中学校訪問を踏まえ、「スマイル&リスペクト」をキーワードに、教育実践を進めて参ります。教職員は、同僚や子どもたち、保護者を含めた他者に対して、また、大人が子どもたちに対して「スマイル&リスペクト」を率先して意識した教育活動を展開いたします。

また、「非認知能力」を意識した教育活動を進めて参ります。学力検査等では測定できない、数値化できない能力である「やる気、忍耐力、協調性、自制心」など、人の心や社会性に関する力、自分と他者を大切にできる非認知能力の育成を常に意識して教育活動を展開して参ります。そして、「認知能力」と「非認知能力」のバランスを考慮しながら、個別最適な学びを提供できる学校教育を展開して参ります。

学校環境適正化に関する計画について、少子化による出生数等が減少するなかで、これまで広く市民の皆さんから御意見・御要望をいただきました。令和7年度は、これらを踏まえた計画の実行に更なる検討を重ねていく年度となります。学校環境の適正化には、学校教育の質を確保し、子どもたちが相互に関わりを持って、他者に対して優しく寄り添える「にかほ人（びと）」の育成と、地域を笑顔で元気にする教育環境の整備が重要と考えております。そのためは、にかほ市における将来の子どもの数について、予測データ等を参考にしながら多様な視点を取り入れ「適正な学校の在り方」について、綿密に検討していく必要があります。

私たちは、秋田県が抱える共通課題としての少子化による学校再編、高齢化による孤独や孤立、コミュニティの脆弱化等を、マイナス思考で捉えることなく、子どもたち一人ひとりの個性を把握し、長所を伸ばすきめ細かな教育を展開できるチャンスであると前向きに考えています。

にかほ市教育委員会は、教育行政を預かるものとしての「責任の重大さ」を改めて深く認識しており、令和7年度は、何が最適解かを追究しながら、地域に根ざし信頼される教育、未来を拓く教育を進めるために、全力で努力して参ります。

次に、「第2次にかほ市総合発展計画（後期基本計画）」に基づく主な施策について申し上げます。

●「子育てしやすいまち」

○ 児童生徒の学力向上及びたくましい心と体の育成について

令和7年度の学校教育における大きな目標は、今年度に引き続き、予測困難なこれからの社会をたくましく生き抜くための力と確かな学力を育むことです。この目標を実現するために、学校教育の充実に努めて参ります。

まず、学習においては、児童生徒が自分の疑問を解決し、「わかった!」「おもしろい!」と感じられるような授業を目指して参ります。具体的には、一つ一つの知識がつながり、学びの面白さを実感できるような授業を進め、学びに対する興味を引き出します。そして、児童生徒が周りの人たちと共に考え、学び、新しい発見や豊かな発想を生み出すことができる授業を展開いたします。また、見通しをもって粘り強く取り組む力を育むために、学習目標の設定と学びの振り返りを大切にいたします。児童生徒に学習の見通しをもたせ、その学びを自分で確認できるような時間を確保いたします。これらを通じて、児童生徒が自ら課題を見付け、解決する力を育て、学びを深めるとともに、達成感を得られる授業づくりを行って参ります。

次に、安心して学習に取り組むことができる学年・学級づくりにも力を入れ、児童生徒一人ひとりが自分の力を最大限に発揮できるよう支援して参ります。より良い学年・学級づくりのためには、児童生徒と教師、児童生徒同士の良好な人間関係が不可欠で、楽しい学校生活を送るために、アンケートやQ-U検査などを活用し、学級づくりに役立てて参ります。また、児童生徒の理解を深めるための研修を実施し、学校全体で協力し合う環境づくりを進めて参ります。

さらに、一人ひとりの学びを支えるため、ICTの活用を推進します。「1人1台端末」を有効に活用し、用語検索や学習支援ソフト、協働学習支援ツールなどを活用することにより、児童生徒が自分の疑問を追究できるようにいたします。これにより、個別最適な学びを深めていくとともに、児童生徒の考えを可視化し、相互に話し合いながら学びを深めて参ります。

外国語教育においては、教育指導員や外国語活動支援員、ALTなどを活用し、外国語を使ったコミュニケーションの場面を意図的に設定し、外国語によ

るコミュニケーション能力を高めて参ります。理科教育では、児童生徒が夢中になって考え、解決しようとする姿勢を育てるために、実験や探究活動を中心に授業を進めるとともに、教職員向けの研修会も実施し、楽しく学べる理科の授業を推進して参ります。また、道徳教育の充実も重点に掲げ、児童生徒がより良い生活や人間関係を築き、自己の生き方について深く考えることができるよう取り組んで参ります。

○ 地域を活かした教育環境の充実について

本市の歴史や文化、防災教育、最新科学などを学ぶ「にかほ地域学」を中核としたふるさと教育を推進するとともに、鳥海山・飛島ジオパークと連携した自然遺産などを学ぶ「にかほジオ学」を継続して参ります。市内の教育施設や地域人材等を積極的に活用していくことで、ふるさとにかほのよさを実感し、ふるさとにかほを愛し、ふるさとにかほを支えていく人材を育成して参ります。

また、中学校においては、「にかほ市若者円卓会議」との連携や地元企業との繋がりを重視した企業説明会の開催等を通して、働く人の願いや思いに触れ、実際に仕事を体験するなど地域に根ざしたキャリア教育を進めていくほか、秋田大学との連携による市内中学校を卒業した学生を講師とした講演会を行います。

これらの事業を通して、将来の目標に繋がる進路選択ができるよう支援して参ります。

○ 新たな教育課題への対応について

児童生徒の実態や特性に対する保護者の理解を深め、関係機関と連携し、適切な教育相談を推進して参ります。不登校児童生徒への対応として、にかほ市教育支援センター「ぱすてる」を中心に、学校、教育研究所不登校児童生徒対応教育指導員、こども家庭センターや児童家庭支援センター「こねくと」等の関係機関と連携した相談体制を整えており、一人ひとりの心の不安を軽くし、心の居場所づくりや社会的自立を支援して参ります。

また、急速に発展する高度情報化社会に適応できる児童生徒を育てるために、情報活用能力の向上を引き続き目指して参ります。ＩＣＴ支援員を配置することで、より効果的な活用を目指し、研修や日常の授業支援等を通して、教員の

I C T活用能力の向上に努めて参ります。

プログラミング教育においては、仁賀保高校や関係機関と連携し、本市で開催されているWRO公認秋田中央地区大会への積極的な参加を目指すなど、更に充実を図って参ります。

●「人と文化が豊かなまち」

○ 生涯学習の推進と充実について

多様化・高度化する市民の学習ニーズや、生活スタイルを考慮した学習機会の提供と、学習内容の充実を図ることで魅力的な学びの場を創出し、あらゆる世代の市民が、生涯にわたり意欲を持って学び続けることができるような環境を整備して参ります。各種講座等の開催にあたっては、市広報やSNS、報道機関等も活用して広く情報発信して参ります。

また、障がいのある方も参加できるような講座の開催について、関係機関と連携しながら、実施に向けて取り組んで参ります。

一人ひとりが地域の担い手となり、地域全体がウェルビーイングの向上を目指して、今後も公民館や学校、家庭、地域が連携し、生涯の各期における学習の推進を実践して参ります。

○ 芸術文化の振興と支援について

市民の多くが芸術文化活動に興味を持ち、参加できるような発表の場を設けるとともに、学校との連携により子どもが芸術鑑賞できる機会、あるいは芸術文化団体等による創作体験教室や講座を開催することで、幅広い年齢層が芸術文化に触れる機会を提供して参ります。芸術文化団体の活動や育成についても継続的に支援し、若い世代の会員等を増やすための交流機会を創出するなど、芸術文化活動の振興に努めて参ります。

また、文化祭においては、慣例にとらわれることなく学校や企業と連携した「参加体験型交流イベント」を開催するなど、更に工夫を重ねて事業内容の充実を図って参ります。

○ 図書館の充実について

幅広い年齢層からの図書館利用に繋がるよう、特に利用の少ない中・高校生

が興味を持つような図書選定にて充実度を高め、来館者数の増加を目指して参ります。

また、図書館を利用しにくい環境にある市民にも移動図書館などのサービスを提供することで、市民の皆様が情報の取得や、芸術、文学を鑑賞するといった読書ができる機会を増やし、地域の文化的な活動の底上げを図って参ります。

ブックスタート事業やお話会など、未就学児と保護者が絵本に触れ合える機会の提供、小・中学校における校外学習を通した図書館活用情報の周知、学校図書館との連携強化、県立図書館をはじめとする県内公立図書館との相互貸借事業による貸出サービスの充実などによる、各世代に応じた読書活動の推進に努めて参ります。

○ フェライト子ども科学館の充実について

市内全小学校において、「移動科学実験教室」を引き続き実施いたします。この実験教室は、本市の特色ある理科教育事業として、対象学年の3年生は磁石、5年生は電磁石を学習テーマに、科学館職員が小学校に出向いて、あるいは科学館で特別授業を行います。

このほか、米村でんじろうサイエンスプロダクション実験教室の開催やWRO事業等のプログラミング教育を含めた幅広い科学に関する学習機会の提供を継続して参ります。

○ 白瀬南極探検隊記念館の充実について

白瀬隊子孫に関する継続調査により、学術調査を裏付ける資料が新たに寄贈されており、これらの資料を基に企画展を開催いたします。

また、にかほ市デジタルアーカイブ事業は、引き続き既存及び新たな寄贈資料を含め、メタデータ化を進めて参ります。

白瀬イズム継承ゾーンの雪上車展示室内に、冒険家・阿部雅龍氏の足跡コーナーを設けるとともに、名誉館長であり、初めて日本人として南極点に到達した村山雅美氏率いる第9次南極地域観測隊の展示をリニューアルいたします。

○ 史跡・名勝・天然記念物の保護・管理について

国指定天然記念物獅子ヶ鼻湿原については、近年の湿原周辺の環境変化を踏

まえた調査結果の公開や活用方針、そして、保存・活用に取り組んでいく運営方針、取扱い基準などを定めた保存活用計画を策定しており、令和7年度は、文化庁の認定に向けた申請手続きを進めるとともに、引き続き水質などのモニタリング調査を実施いたします。

○ 伝承芸能・年中行事の保存・継承について

本市には、国の重要無形民俗文化財に指定されている小滝のチョウクライロ舞をはじめ、5つの番楽が県指定されるなど重要な伝承芸能があるものの、それぞれが後継者不足による存続の課題を抱えております。

そうした中であって、県外学生を対象とする番楽体験プランを企画・開催したり、地域外の女性が笛の奏者として新たにメンバーに加わった例があるなど、例年とは一味違った新たな取り組みから盛り上がりを見せた地域もあり、今後が期待されるところであります。

先人たちが守り受け継いできた伝承芸能は、携わる人々の郷土愛を育み、また世代間交流を通して地域のつながりをもたらす貴重な文化であることから、引き続き保存団体連絡協議会と共同し、市内小中学校や高校において番楽体験事業を行うほか、鳥海山伝承芸能祭を開催するなど、後継者の育成と保存継承に努めて参ります。